東京パリ闘い通り

秦早穂子

秦　早穂子（はた・さほこ）
昭和六年、東京に生まれる。
戦争体験から、女も働くことを信条とし、女学校卒業後、自活の道を歩み始める。
現在はＴＶ映画輸入会社「ジャフラ」主宰。
主な著書――『パリ・東京井戸端会議』（共著）読売新聞社刊、『パリに生きる女たち』時事通信社刊、『巴里と女の物語』ＰＨＰ研究所刊、その他。
主な訳書――『獅子座の女シャネル』文化出版局刊、『シャネルの生涯とその時代』鎌倉書房刊、その他。

東京パリ闘い通り
*
一九八一年一一月一〇日初版発行
著　者　秦　早穂子
発行者　大和岩雄
発行所　大和書房
東京都文京区関口一―三三
郵便番号　一一二
電話（二〇三）四五一一
振替東京六―六四二二七
装丁者　高麗隆彦
印刷所　奥村印刷
製本所　東京美術紙工
乱丁本・落丁本はお取替えいたします
0012-001060-4406
©SAHOKO HATA 1981 Printed in JAPAN

1958年、やっと留学したパリから戻ってきた時、羽田空港で。この直後、再び仕事でパリへ。パリ迄の切符が当時で48万円、飛行時間が48時間の時代である。

1963年、「ブーベの恋人」撮影現場のイタリーの農村で、カルディナーレ、チャキリスと。

1961年、「女は女である」の撮影現場、「夜よ、さようなら」の舞台パリのポルト・サン・ドニで、アンナ・カリーナ、ベルモンド、ジャン・クロード・ブリアリと。右上はゴダール監督。

1963年、来日したアラン・ドロンと。「太陽がいっぱい」はフランスではヒットしなかった。(「スクリーン」提供)

1959年、ノートルダム寺院の前で。

1960年、「明日は別の日」の撮影現場でシモーヌ・シニョレと。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

1959年、「ぼくの伯父さん」のジャック・タチと。

1978年、東京の自宅で。働く女の先駆けであった祖母の代から伝わる我家の豆雛の前で。(婦人画報社提供)

東京パリ闘い通り

秦早穂子

まえがき

働き出す二十代は、無我夢中。仕事を身につけ出す三十代。一番のびる季節だが、始末もわるい。変な自信がついてしまう。ずっとあとになって、はたと気がつき、ひとり赤面するとは、働きつづける女たちが、一様に口にする言葉である。四十代で、やっと一人前かと思うと、これまた、別な問題がひかえている。頭や肉体が、若さに向っては進行していないという現実の前に、女たちは、じたばたしはじめる。

五十代。肚をすえ、格と深みのある女自身をつくっていこうとしないと、仕事も、生きるそのことにも、行きづまってしまう。そして、それから、生きつづけるであろうかもしれない年月——。

仕事や、毎日の暮らしのなかには、どうすれば、能率的で、得であるかという技術や方法論も数多くあるだろう。たとえ、それが、全体の九十パーセントをしめたとしても、果して、それだけで、人間は満足するのだろうか。私たち、女がおち入りやすいのは、方法論と、考えとを、ごちゃまぜにしてしまうところである。残されたわずかな、しかし重要なこの部分は、ひとりひとりの問題なのであろう。

ヴァンドーム広場近くに、リュ・ド・ラ・ペエという通りがある。直訳すると、平和通り。かつては、優雅な商業の一等地として、名高かった。

この一番地に、マダム・グレの店がある。彼女を取材させていただくにあたって、一時、このあたりに旅装をといたことがある。彼女の毎日の仕事ぶりをみて、平和どころか、闘いの連続だと、つくづく身にしみたのであった。

よく考えてみると、東京もパリも、いや、どこの場所にも、平和通りは数多くあるようだが、それは名ばかり。実際は、闘い通りなのではないだろうか。

それも、一番地に位すればまだしものこと、多くの女は、ゼロ番地で、アップアップして

いるように思う。

女たちの心のなかには、男とは異なる、それぞれの闘い通りがあり、誰もが、その闘い通りをかいくぐってゆくのであろう。男と違うのは、女は、その先に平和の通りをのぞみ、この夢だけは、捨てようとしない。

多くの女が、文字通り、世間に出て、働き出した歴史は、まだ、日が浅い。目先にとらわれずあわてずに、じっくり進みましょうというのが、私の提案のひとつである。

たしかなのは、若い季節はそれ自体ですばらしいが、それは人生のほんの一部で、それから先の方が、とてつもなく長いのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

東京パリ闘い通り　目　次

まえがき　3

第一章　働きつづけるということ

私の出発　＊敗戦、そして自分に課したこと　13

働く母と娘　＊歩みよる日々　29

ある季節のパリ暮らし　＊外国であたりまえの生活をする意味　38

第一章　仕事とつきあい

昼食　＊にこやかな笑顔のかげで　55

わが家でのもてなし　＊プライベートタイムの確保と充実　62

パルドン　＊「ごめんなさい」をめぐるトラブル　72

チップと人間の関係　＊女とスマートなお金の使い方　83

第二章　仕事を通して見た日本人気質・フランス人気質

凱旋門　＊個人個人でうまくやるという生活方法　95

雨にぬれた家鴨（あひる）　＊あるフランス人の感想　100

愛とお金と結婚　＊情に流されない金銭感覚　110
可愛い子には旅をさせ……　＊パリの日本人もいろいろ　122
第四章　変ったもの・変らないもの
ゆらぐ父親像　＊仕事一筋ではもはや尊敬されない　139
女友達　＊異った人生ゆえの接点　156
一九八一年五月十日　＊新大統領への期待とフランスの現実　167
女と職場　＊根強い差別社会と働く女自身の問題点　181
ひとつ火　＊あとがきにかえて　193

〈第一章〉 働きつづけるということ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c